

資料

ヒサカキ生産の収益性

河内眞子

はじめに

ヒサカキ (*Eurya japonica*) は、本県では「シバ」と呼ばれ、主に墓花として利用されているが、関西では仏花として、関東ではサカキの代用として利用されている。

これらは、神仏用として全国的に安定した需要があり、本県は全国2位の生産量を誇るものの（農水省，2019），国産品は慢性的に供給不足で、流通量の約9割を中国産が占め（宇多，2013），市場からは品質の良い国産品の供給が求められている。

本県の生産者の多くは、関西・中国地方向けに、仏花や墓花用として出荷しており、当センターでは、これまでに枝物生産者の安定的経営に資するため、枝物の栽培技術に関する調査研究を行い、優良個体選抜やその普及を行っている（小山，2007）。

今回、ヒサカキ生産の新規参入の促進に資するため、県内生産者の生産状況について調査し（写真1），県外出荷を想定した経営指標を作成したので、その結果について報告する。



写真1 ヒサカキ圃場（植栽間隔 1.5m×1.5m）

調査方法

枝物生産者A氏（栽培規模ヒサカキ180a）の御協力を得て、2019年1～12月の年間労働時間や売上実績等を調査し経営指標を作成した。

試算にあたり、関東及び中国地方へのお荷と、1経営体あたり自家労力2人（労働時間約2,000時間/人/年）を

想定し、販売手数料や運賃等の流通に関する経費では実績に基づく数値や単価を、減価償却費・農薬費・肥料費等の物財に関する経費では一般的に使用すると想定される資材や単価を採用した。なお、作成にあたっては、鹿児島県農業経営管理指導指標（鹿児島県，2016）等を参考にした。

結果及び考察

生産者が10a当たりヒサカキを4,200束生産した場合の経営指標（栽培規模140a）を表1に示す。生産量4,200束は、年間を通して関東地方へ3,700束（長さ38cm，単価110円），中国地方へ500束（長さ60cm，単価160円）を出荷するものとした。

粗収益は487,000円であり、費用（経費）は総原価が462,640円で、総原価から家族労働費と自己資本利子と自己地代を差し引いた経営費は209,941円であった。その主な内訳は、物材費が106,598円，流通費が92,647円であった。物材費の中では減価償却費が43,332円（41%），流通費の中では販売手数料が48,700円（53%）と大きな割合を占めた。

所得は277,059円（所得率57%），家族労働1日当たりの所得は7,388円となった。

労働時間は年間300.0時間で、作業種別では出荷調整作業（くくり）が174時間と全体の58%を占め、続いて収穫（荒穂採取）23%、保育・管理11%となった。くくりは全て手作業で行われるため、その作業効率は収益性に大きく影響する。

月別労働時間は6月から9月が最も多く（28.0時間），最も少ない1月（21.0時間）の約1.4倍であり、シキミの約1.7倍（47.0時間/27.6時間）（河内，2020）に比べ、お盆・彼岸の特需期とそれ以外の時期との差が小さい。

また、今回の試算では、4,200束の製作に174.0時間必要とし、1時間あたりの製作数は24.1束だったが、この作業効率を上げるには、荒穂からの歩留まりがよく、作業しやすい優良系統の苗木を植栽することや、病害虫による被害葉を少なくするための整枝・剪定や薬剤散布等の適切な管理が非常に重要と考えられた。

表1 ヒサカキの経営指標 (栽培規模 140a)

区分	ヒサカキ	作物作型名	周年切り											
1 前提条件等														
(1) 主要作物の規模														
作目	規模													
ヒサカキ	140a													
合計	140a													
(2) 従事者数														
家族労働	2人	常時雇用	人											
(3) 原単位表の規模														
140a規模の 10a当たり	(4) 生産量と単価													
	生産量	4,200束/10a												
	単価	110円/束(38cm) 160円/束(60cm)												
(5) 栽培技術														
苗	優良系統の母樹からのさし木苗 減価償却費として計上 (@450円/本) 耐用年数はつばき (25年) を準用													
定植	時期2~3月 列間隔150cm・株間隔150cm (管理路有) 約350本/10a													
施肥	(基肥) 堆肥2t/10a (追肥) N13kg・P5kg・K6kg													
病虫害防除	ハダニ等の防除 殺虫剤・殺菌剤等を年9回散布													
収穫・出荷	収穫後は水揚げを十分に行う 関東地方 @100g/束(38cm)×3,700束=370kg 中国地方(広島) @220g/束(60cm)× 500束=110kg 段ボール1箱梱包数 200束詰め (36cm) 100束詰め (60cm)													
その他	定植から5年目 本格的な出荷は5年目以降 台木は高さ約60cmの中台仕立て													
2 原単位表														
		円/10a												
		費 日	金額(税抜)											
粗収益	金額(販売収入) ①		487,000											
	雑収入 ②													
	副産物収入 ③													
	粗収益合計 ④=①+②+③		487,000											
費用(経費)	物 財 費	租税公課	3,196											
		種苗費												
		肥料費	7,082											
		農具費	1,766											
		農薬費	19,811											
		諸材料費等	714											
		修繕費	建物施設	2,104										
			機械器具 ⑤	4,601										
		動力光熱水費	14,610											
		作業衣料費	2,464											
		共済掛金	1,795											
		減価償却費 ⑥	建物施設	14,026										
			機械器具	23,006										
		動物植物	6,300											
		雑費	5,124											
小計 ⑤		106,598												
労働費	家族 ⑥	249,900												
	雇用 ⑦	0												
合計 ⑧=⑤+⑥+⑦		356,498												
経費から差し引く育成費用 ⑨		0												
生産費 ⑩=⑧-③-⑨		356,498												
資本利子	支払 ⑪	2,181												
	自己 ⑫	2,181												
地代	支払 ⑬	8,515												
	自己 ⑭	618												
支払利子・地代算入生産費⑬+⑭+⑫		367,194												
資本利子・地代全額算入生産費⑬+⑭+⑫+⑪		369,993												
流通費	販売手数料等 ⑰	48,700												
	出荷資材費	6,000												
	その他資材費 ⑱	6,717												
	運賃	31,230												
小計 ⑲=⑰+⑱		92,647												
総原価 ⑳=⑩+⑲		462,640												
経営費㉑=⑤+⑦+⑪+⑬+⑭+⑲-⑨		209,941												
所得 ㉒=④-㉑		277,059												
所得率㉓=㉒/④		57%												
企業利潤 ㉔=㉒-⑥-⑫-⑭		24,360												
家族労働報酬 ㉕=㉒-⑫-⑭		274,260												
家族労働1日当たり所得 ㉖=㉕/㉗*8		7,388												
3 月別労働時間														
区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	割合
1 保育・管理	2.0	0.0	2.0	2.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	2.0	0.0	0.0	33.0	11%
2 収穫(荒穂採取)	5.0	6.0	6.0	6.0	5.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	70.0	23%
3 出荷調整作業(くくり)	12.0	15.0	15.0	15.0	12.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	174.0	58%
4 経営管理(出荷・研修等)	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	23.0	8%
合計	21.0	23.0	25.0	25.0	23.0	28.0	28.0	28.0	28.0	25.0	23.0	23.0	300.0	100%
※合計労働時間のうち家族労働②300時間 雇用労働時間 0時間														

4 減価償却費の算定基礎

ヒサカキ周年切り 140 a規模の10a当たり

区分	種類	形式	数量	取得価格 (円)	取得時 負担割合 (%)	実用 耐用年数 (年)	年償却額 (円)	利用 面積 (a)	対象作物負 担額等年償 却額(円)
				㉘	㉚	㉜	㉙=㉘*㉚/㉜	㉛	㉞=㉙/㉛*10
建物施設	作業場	木造	54 m ²	4,320,000	100%	22	196,364	140	14,026
	小計			4,320,000			196,364		14,026
機械器具	軽トラック	4WD	1 台	1,027,000	100%	6	171,167	140	12,226
	動力噴霧機	3ps	1 台	259,200	100%	10	25,920	140	1,851
	冷蔵庫	2坪	1 台	1,000,000	100%	10	100,000	140	7,143
	パソコン		1 台	150,000	100%	6	25,000	140	1,786
	小計			2,436,200			322,087		23,006
動物植物	ヒサカキ	苗木	4,900 本	2,205,000	100%	25	88,200	140	6,300
				(450円/本)					
	小計			2,205,450			88,200		6,300
合計			8,961,650			606,650		43,332	

注1) 取得時負担割合：「全額自己負担100%」「補助事業活用70%」「共同利用33%」から選択
 注2) 建物施設・機械器具の耐用年数は、実用耐用年数（法定耐用年数の1.5倍）を使用した。
 注3) 利用面積は他作物も含めた経営全体のうち当該施設を利用する面積とした。



写真2 出荷の状況(長さ60cmのくくり)

おわりに

ヒサカキ栽培は、苗木を植栽してから本格的な収穫までに3年以上要する。株が充実してくれば収穫量は増加するとともに、その後、数十年は継続的に収穫できる。

ヒサカキの枝葉の形質は様々であり、収穫量及び歩留まりが良く商品にしやすい優良系統の苗を栽培することが、作業効率及び所得向上に繋がることから、苗木の選択は非常に重要である。

枝物の経営では、収入(販売)目標、投入できる労働力、

苗や圃場の確保等を総合的に考え、各種試算等を行い、生産者のライフスタイルにあった栽培規模や経営方針を検討し計画することが重要である。

また、労働時間の多くを出荷調整作業(くくり)が占めていることから、現在のくくりの形態だけでなく、市場等のニーズをとらえながら重量または本数等の定量的な取引の検討などが重要であると思われる。

このようなことから、今後も枝物経営に関する調査等を行い、生産者に有益なデータの提供や収益性の向上に繋がる技術指導等を行っていく予定である。

引用文献

- 農林水産省(2019) 特用林産物生産統計調査, 特用林産基礎資料: 53.
- 宇多 明(2013) 花の小辞典: 173.
- 小山孝雄(2007) 枝物の優良品種の選抜及び供給について, 鹿児島県林業技術研究成果集 10: 1-2.
- 鹿児島県(2016) 農業経営管理指導指標: 134.
- 河内眞子(2020) シキミ生産の収益性, 鹿児島県森林技術総合センター研究報告 21: 14-17.